

所在地および連絡先

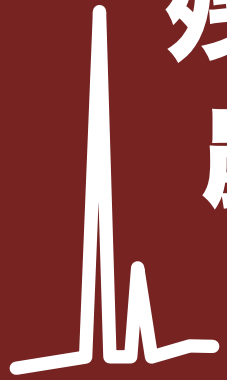
〒173-0025
東京都板橋区熊野町 47-11
電話 03-5926-5131 FAX 03-3959-5660
email : power8@nouminren.ne.jp
web : <http://earlybirds.ddo.jp/bunseki/>



一般社団法人

農民連食品分析センター

募金で生まれた分析施設



**残留
農薬
分析**

**遺伝子
組換え
調査** 

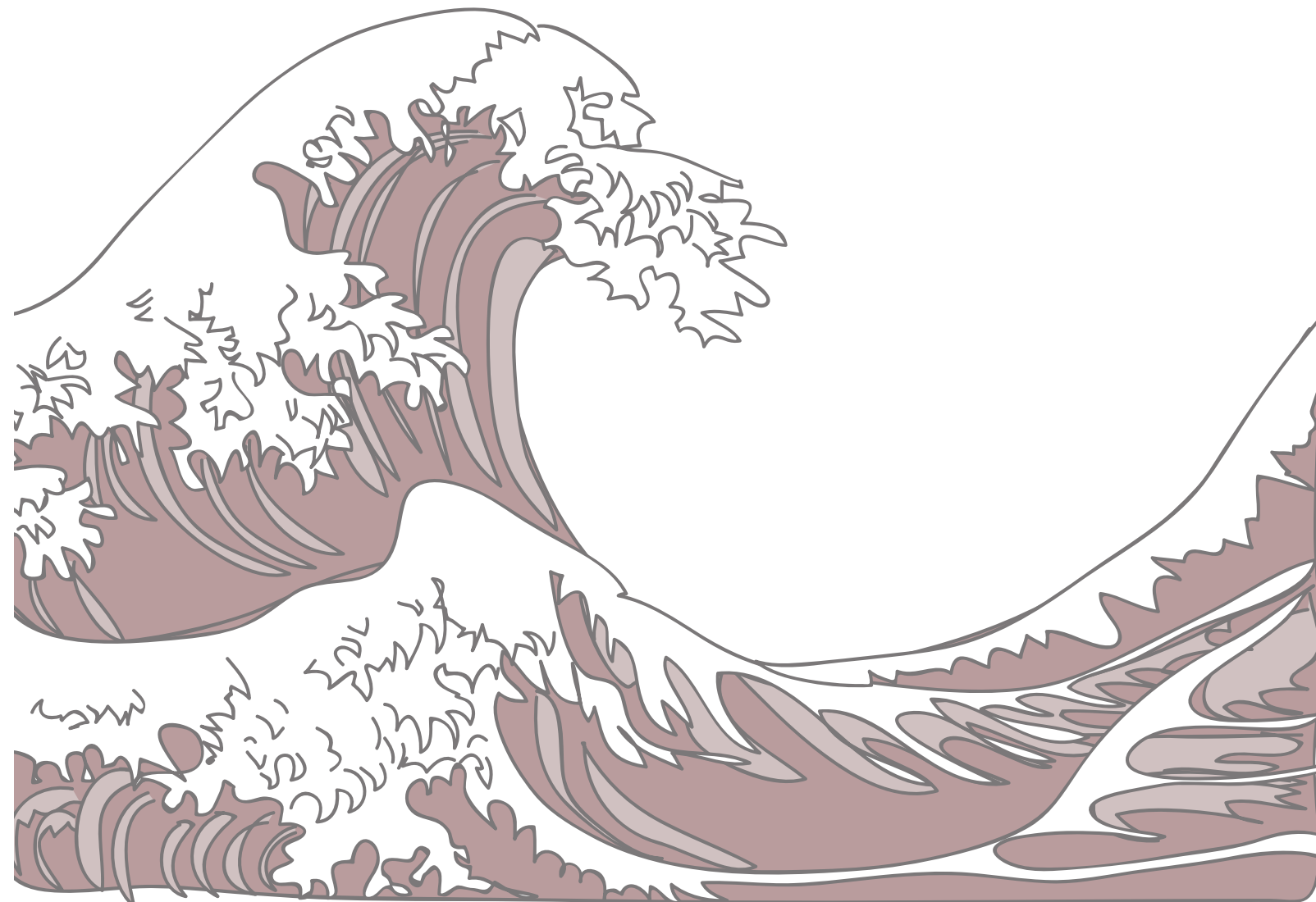
**食品
放射性物質
汚染検査** 

**その他
分析
!** 

**重金属
分析** 

**実験
キット** 

**見学
学習会** 



設立の背景

農民連食品分析センターは、1996 年に多くの農業者や消費者の募金により設立された背景を持つ世界的にも珍しい分析施設です。募金による設立のため、企業や行政などの影響を受けることなく、独立した立場で活動を行っています。

1996 年、日本が WTO 協定に加盟したことを受け、日本の農業者はとてもおどろきました。これによって農産物輸入が増加することやその検査が簡略化されることがわかったからでした。そしてなにより消費者にそうした農作物が届くことについて強い不安と心配を感じていました。

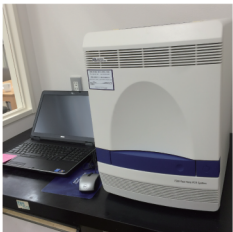
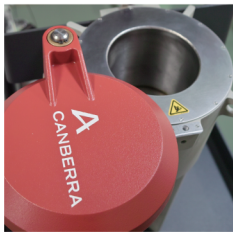
不安といわれる輸入食品について、科学的で中立な立場でデータを集め伝えたい、また国産農産物の品質を確かめたい、そしてよりよい食生活を家族ともちたいと願う消費者に情報を発信していこうと、設立に取り組みました。小さな農家の組織からスタートしたこの運動は、多くの農業者や消費者に支えられて、世界でもまれな分析施設として一步を踏み出すことになりました。

設立以来、学校給食パンのポストハーベスト農薬問題、漢方薬の残留農薬問題、割り箸への漂白剤使用問題などを明らかにしてきました。特に 1998 年、中国産冷凍ほうれん草の残留農薬問題発見は食品衛生法改定と残留農薬のポジティブリスト制度化へとつながりました。

私たちは、これからもずっと農業と生活に密着した視点から情報を提供していきます。

主要な分析機器

- ・ゲルマニウム半導体検出器（CANBERRA 社製 GC2010, Cryo Cycle 付, ISOCS）1 台
- ・3inch NaI(Tl) シンチレーションスペクトロメータ (CANBERRA 社製 Inspector1000, ISOCS)1 台
- ・2.5inch NaI(Tl) シンチレーションスペクトロメータ（日立 ALOKA 社製 CAN-NAI-OSP）2 台
- ・ガスクロマトグラフ質量分析計（島津製作所製 QP-2010plus）1 台
- ・ガスクロマトグラフ（島津製作所製 GC2010）1 台
- ・ガスクロマトグラフ（島津製作所製 GC-17A）1 台
- ・高速液体クロマトグラフ（島津製作所製）汎用システム+カーバ-メイト系農薬検出システム
- ・液体クロマトグラフ質量分析計（島津製作所製 LCMS-8050）1 台
- ・アミノ酸分析計（島津製作所製）1 台
- ・PCR サーマルサイクラー（ABI 製 GeneAmp PCR System 9700）1 台
- ・原子吸光光度計（日立ハイテクサイエンス製 Z-5010）1 台
- ・分光光度計（島津製作所製 UV-2550）1 台
- ・pH および EC メーター



活動沿革

1996 年 03 月 01 日 農民連食品分析センター鍬入れ式

1996 年 05 月 20 日 農民連食品分析センター設立（東京都板橋区成増 1-5-22）

1996 年 9 月 輸入小麦を原材料とした小麦製品からポストハーベスト農薬を検出、発表。

1996 年 10 月 アメリカ産フライドポテトやブロッコリーから残留農薬を検出。

1997 年 2 月 輸入レモンに防かび剤検査を実施。防かび剤を検出。多用を指摘。

1997 年 2 月 輸入配合飼料から、有機リン系農薬を検出。輸入飼料の農薬問題を指摘。

1997 年 3 月、4 月 有機認証輸入大豆製品の残留農薬検査を実施。有機リン系農薬を多数検出。

1998 年 2 月 新米表記の商品に、鮮度が低下した米を混入していることを確認、発表。

1998 年 乾麺やカップ麺の残留農薬検査結果を発表。ポストハーベスト農薬の使用を確認。

1999 年 9 月 17 日 遺伝子組み換え食品検出機器配備。トウモロコシ、大豆の検査を開始。

1999 年 9 月 新米表記商品に古米と考えられる鮮度の低下米が混入されていることを確認、発表。

1999 年 11 月 8 日 スナック菓子から遺伝子組換え DNA を検出。（当時は表示制度は未定）

2000 年 8 月 22 日 ECD 検出器付きガスクロマトグラフ配備。有機塩素系農薬の検査受入を開始。

2000 年 9 月 日 健康食品大豆プロテイン製品から遺伝子組換え DNA を検出。

2000 年 10 月 中国産生鮮野菜から残留農薬違反を検出。

2000 年 12 月 中国産冷凍野菜の残留農薬分析。違反品相当品を確認。厚生労働省にデータ提供。

2001 年 ハンバーガー、パンなどから有機リン系農薬を検出。小麦輸入にかかる課題を指摘。

2001 年 2 月、4 月 ベビーフードから残留農薬違反相当品を摘発。依頼者により厚生労働省に。

2002 年 2 月、3 月 中国冷凍野菜の残留農薬分析。基準値違反相当品を摘発。厚生労働省に。

2002 年 2 月から 6 月 冷凍枝豆・生鮮枝豆および居酒屋・ファミレス・コンビニ・スーパーの調理済み枝豆製品の残留農薬分析を実施。基準値違反に相当する商品を摘発。

2002 年 4 月 ファミレスなどのほうれん草調理済品から残留農薬違反相当を検出。厚生労働省に。

2002 年 機器強化のための第 3 次募金活動開始。

2002 年 11 月 26 日 割り箸（竹箸・木製）中の残留化学物質の分析結果を発表。

2003 年 5 月 22 日 生薬・漢方薬中の残留農薬分析結果を発表。厚生労働省にデータ提供。

2003 年 1 月 21 日 厚生労働省が割り箸類に二酸化硫黄の監視強化開始。

2003 年 3 月 10 日 割り箸（竹箸・木製）中の残留化学物質の分析結果を発表。

2003 年 7 月 1 日 原子吸光光度計を配備。重金属分析の受入を開始。

2004 年 7 月 22 日 市販食肉に鮮度保持の目的で使用された白色粉末を検出・摘発。

2004 年 7 月 14 日 「遺伝子組換え大豆不使用」表示のある大豆製品から組換え遺伝子を検出。

2005 年 3 月 12 日 遺伝子組換えナタネ自生調査を開始。

2006 年 8 月 4 日 施設を東京都板橋区成増 1-5-22 から東京都板橋区熊野町 47-11 へ移転。

2007 年 02 月 28 日 精白米の粒径調査と品質評価を発表。くず米加工米問題に警鐘。

2008 年 08 月 05 日 隠れ遺伝子組換えナタネと考えられる個体を初めて採取。

2011 年 03 月 21 日 TCS161 による緊急時における放射性ヨウ素及びセシウム汚染検査を開始

2011 年 06 月 24 日 TCS172 配備。緊急時における放射性ヨウ素汚染検査態勢を強化

2011 年 08 月 12 日 NaI シンチレーションスペクトルメーター配備。放射能汚染検査を開始

2011 年 11 月 08 日 NaI シンチレーションスペクトルメーター Inspector1000 および ISOCS 配備

2012 年 03 月 27 日 ゲルマニウム半導体検出器 GC2020 配備。食品放射能汚染の精密検査を開始。

2012 年 11 月 01 日 一般社団法人 農民連食品分析センターに法人を変更。